

令和7年度 自己評価書

令和8年3月17日
真庭市立久世第二保育園
園長 難波 明美 印

1. 久世第二保育園の教育保育目標

児童福祉法に基づき保育を必要とするすべての子どもに対し、安心・安全な生活の場を保障し、保護者と共に子どもの最善の利益を考慮した保育を行う。

保育方針

- ・子どもが自ら生き生きと活動することを通じて健全な心身の発達を図る。
- ・家庭との連携を大切に、子どもの成長を共に喜ぶ。

教育・保育目標

- 「居心地の良い環境の中で育ち合う保育」
- 生き生きとした元気な子ども
 - 自分の思いを相手に伝えられる子ども
 - 友達と共に育ち合う子ども

2. 本年度の重点目標

“子どもも保護者も職員もつながりを大切に。
心も体も元気で明るく笑顔あふれる保育園”

○本年度保育テーマ

「言葉で表現する力を育むための保育者の援助を探る」
～心が動く遊びを通して～

重点目標

- ・愛着と自己肯定感のもとで夢中になって遊び込み確かな遊びにつながる保育
- ・体を動かす様々な遊びを見つけ、挑戦し面白さを味わえる保育
- ・異年齢児交流を通して、自分も友達も大切にしながら豊かな気持ちを育む保育

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	年間指導計画及び月案・週案に基づき、子どもの発達や興味・関心に応じた保育実践を行うことができた。	3
行事	子どもたちが楽しく参加しながら豊かな経験ができるよう計画できた。行事の中では、友達と力を合わせて取り組む姿や、自身を持って発表する姿など、子どもたちの大きな成長が見られた。今後も子どもたちの発達に配慮しながら、家庭と園が共に成長を喜び合える行事づくりに努めていきたい。	3
組織・運営	本園の保育・教育理念を基盤に職員一人一人が役割を理解しながら組織的に保育を進める体制づくりに努めた。今後も職員間のコミュニケーションを大切にしながら改善に取り組んでいきたい。	3
学級経営	子どもたちが安心して過ごせる雰囲気づくりを大切にしながら、日々の保育を進めることができた。 全体的に配慮が必要な子どもが多く、困難なクラス運営であるが、子どもの主体性を引き出し、職員間の情報共有を深めながら、より質の高いクラス運営につながるよう進めていきたい。	4
特別支援教育	配慮を必要とする子ども一人ひとりの発達や特性を理解し、安心して園生活を送ることができるように支援に努めている。今後も関係機関や保護者との連携を大切にしながら支援の充実を目指していきたい。	4
安全管理・保健指導	安全確保を最優先に考え、施設設備の安全点検や避難訓練を定期的実施し安全管理体制の充実に努めている。 子ども自身が健康や安全について意識できるよう取り組むことを今後も強化していきたい。	3
研修（資質向上）	園内研修では、一つのテーマを2回に分けて全員が参加できるようにした。すべての研修をそのような形にはできなかったため、研修の仕方は課題である。今後は学んだ内容を職員間でより積極的に共有し、実践につながる取り組みをさらに進めていく必要がある。	3

情報提供・保護者・地域との連携	保護者との日常的なコミュニケーションを大切にし、コードモンのドキュメンテーションや送迎時の対話を通して子どもの成長を丁寧に共有することができた。 地域との連携については、新しい試みを計画したが実現することが難しかった。今後は多様な方法を取り入れ、より開かれた園運営を目指していきたい。	3
小学校との接続・連携	小学校との連携は行われているが、活動が単発的になりがちで、子どもの育ちの連続性を意識した取り組みとしては不十分であった。	3
子育て支援	子育てに関する不安や悩みに関しては保護者に寄り添い、安心して相談できる関係づくりを意識した支援を行った。今後もさらなるきめ細やかな支援の充実を図っていきたい。	3
食育の推進（給食）	季節の食材を取り入れた給食や、野菜の栽培、収穫体験、クッキング活動など積極的に取り入れ、子どもたちが楽しみながら食に親しめる環境づくりができた。	3
食事の提供（調理）	アレルギー提供は、調理員同士、調理員とクラス担任が声掛けを密にし、確認しあって誤食がないよう安心・安全な給食提供に努めた。	4

4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
保育の資質向上	一人一人が自己研鑽に努め、日々の保育の振り返りをしたり、久世地区の年齢別ワークショップを重ねたりすることで保育の質の向上に取り組むことができた。園内研修の持ち方の工夫をすることで、より学びを共有する体制を整えていくことが課題である。	3

5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

本年度も昨年度に引き続き、「言葉で表現する力の育成」を軸に、子ども同士や保護者、職員とのつながりを大切にした保育を進めてきた。その中で、安心できる環境のもと自己肯定感が生まれ、子ども達は遊びに主体的に関わりながら、自分の思いや考えを言葉で表現しようとする姿が見られるようになった。

また、体を動かす遊びや異年齢交流を通して挑戦する意欲や思いやりの気持ちも育ってきており、心身ともに豊かな成長がうかがえる。個々の発達や表現の差に応じたさらなる丁寧なかかわりや援助の工夫が今後の課題として挙げられる。

今後も、一人ひとりの思いに寄り添いながら、言葉と心の育ちを大切にした保育の充実を図っていきたい。

6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

○子どもの言葉による表現力の育成において、保育者の継続的な関わりが単発的になりがちであったこともあるので、今後は、子どもの思いや気づきを丁寧に受け止め、言葉へとつなげる具体的な援助を日々の保育の中で実践していけるようにしていきたい。

○職員の自己評価では、地域との連携の面での新たな取り組みが必要と読み取れる。

地域に開かれた園作りをするためにも新たな連携の方法を模索しなければならない。

○職員の資質向上では、職員一人一人が自己研鑽に努め、研修への参加や日々の保育の振り返りを通して保育の質の向上に取り組む姿勢が見られた。今後も個々の専門性を高めるとともに、学びを職員間で共有し、園全体として資質向上につなげていきたい。また、引き続きワークショップを続けていき、保育所保育指針を読み込んでいく時間を確保することで専門性の向上に努めていきたい。

園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である

